

とくなが じゆんこ  
徳永 順子 さん (54歳)  
営農地: みやま市山川町  
主な農産物: ブドウ  
(ピオーネ、サニールージュ)、水稲



## 「この指(農業)とまれ!」夢や世界が広がります。

### ● 就農のきっかけ

#### きっかけは、社内結婚

「就農のきっかけは23歳の時、当時同じ会社に勤めていた夫との結婚がきっかけですね。」と語る徳永さん。

最初は、お義父さんの指導の下、お義母さんと一緒に農業の手伝いから始められました。

就農当時は、農業の知識や経験がなく、何となく仕事をさせられている感じで毎日を過ごされていたとのこと。当時は時間も自由にならず、「ベビーカーで夕方散歩が出来たら良いのにな。」と思ったこともあったそうです。

### ● 私の今～就農後の道のり～

#### 頑張りが自分を支え磨き、そして周りの応援があった。

「大きく環境が変わったのは、平成4年に義父が亡くなったこと。最初はどうしたら良いのかと迷いましたが、これまで両親と一緒にやった栽培経験が役立ち、徐々に自ら作業の段取りを組むことが出来るようになりました。」と当時を振り返り話してくれました。

また、平成14年に地元の推薦を受け女性の農業委員となり、外に出ていきっかけを周りにつくってもらえたことや、地域の農業振興計画の策定委員等の活動を経験する中で、女性にできることが色々あることに気づかれたそうです。

ミカンやブドウの産地で、当時はその会合は決まって男性が出席する時代。まず、女性が外に出る機会、女性が話し合いをする機会づくりに取り組まれたそうです。今では、「父ちゃんの後をついていく」という女性の意識が「自分たちも一緒にやっていく」という意識にかわってきたと話してくれました。

現在も女性の農業委員を務められており、また、山川町の女性リーダーの一人として基盤整備田の裏作野菜の検討や地元生産物を使った加工品づくり等にも取り組んでいます。

### ● これからの夢、目標

#### 新たなことにチャレンジ

「最近、研修会に参加してフェイスブックを始めたんですよ。世界が広がりますね」と語る徳永さん。5人で始めた加工グループ『山川ころりん』のブログも開設されたそうです。

フェイスブックやブログを通じて、様々な人と出会い、最近では、加工品の商談の話や仲間を通じて研修会等の情報も入って来ているそうです。

将来の夢を尋ねたところ、「震災後特に安全安心への消費者ニーズが高まる中、自信を持って消費者の方に安全なものをお届けができるような仕事をしたいですね。食を愛おしいと思うと、作物にも心が伝わると思います。」また、「冬場空いている農地に菜の花を栽培し、地域に人を呼び込み元気にしたいですね。」とこれからの夢や目標について語る徳永さんの目は、力強く輝いて見えました。



#### プロフィール

- 家族構成 / 本人、夫、子2人、母
- 営農年数 / 約30年
- 耕作(経営)面積 / ブドウ0.23ha、水稲0.11ha
- 販路 / JA共販

#### 就農を考えている女性へ ♡

日本の食糧自給率は約4割とされています。食べ物の大部分は海外に頼っているのが現状です。絶対安心な食べ物を自分達で作っているのは農家の強みだと思います。農業も工夫次第で楽しくできます。子供と触れ合いながら自然の中で作業することは子供にもメリットがあります。農業を目指されている貴女、この指(農業)にとまれ!